

両立支援制度を拡充するための様々な取組を実施

育児休業を3歳到達直後の4月末まで取得可能とするなど拡充し、さらに介護休業についても、対象家族1人につき365日まで取得可能とし、両立支援を図っている。

バンドー化学株式会社

取組の目的

従業員一人ひとりがやりがいを持って、生き生きと働くことが出来る職場環境の整備が重要との考えの下、両立支援制度の拡充、年次有給休暇の取得率向上などの取組を実施している。また健康経営にも積極的に取組んでいる。

法を上回る両立支援制度

利用者の声（育児短時間制度利用者）

<育児>

- 育児休業制度は3歳到達直後の4月末まで取得可能である。
※取得状況 2015年2人 2016年4人
2017年10人
※2016年及び2017年と2年連続で男性1名が取得。
- 育児短時間制度については小学校3年生修了まで取得可能。短縮可能時間は1時間又は2時間の選択制。

Jさん

短時間勤務制度があるおかげで、キャリアを中断せず働き続けながら、早く帰れるので、小さな子どもに寂しい思いをさせず育てることができます。共働きが増える中、心底からありがたい制度だと思っています。

<介護>

- 介護休業制度については、対象家族1人あたり365日を限度に取得可能（介護休業の取得実績は現在のところない）。

<その他>

- 再雇用制度は結婚、育児、出産、配偶者の転勤、介護などの理由で退職した場合に、再雇用の申し出が可能としている（再雇用制度は2017年に導入し、取得実績は現在のところない）。
- 配偶者出産休暇制度（有給）については2日取得を可能とした。

上記のように、法を上回る制度を導入し、従業員が長く、生き生きと働けるよう両立支援の取組を拡充している。

多様な働き方への配慮

転勤への配慮

- 配偶者の転勤、親の介護、育児等のため、転勤を希望する従業員については、可能な限り希望する勤務地への転勤を可能としている。
- 例えば、小学校 3 年生まで育児短時間勤務を利用していた者が、育児と仕事を両立するため、実家のある勤務地への異動を希望し、転勤させたことがある。

在宅勤務制度（2018 年 4 月制度化）

- 育児・介護を抱えている労働者（3 名）を対象にして 2017 年 8 月～10 月（3 か月間）に試行。週に 1～2 日の頻度で在宅勤務を実施した。
※参加者からは「全日の実施はまだまだ難しい」との意見があった（在宅可能業務が限られており、全日在宅で対応できる業務が少ないとの意見）
- 2018 年 4 月に育児、家族の介護および私傷病による通勤困難者を対象に制度を開始した。

労働時間の削減への取組

定時退社日（ノー残業デー）

- 毎週 1 回を定時退社日（ノー残業デー）とした。
- 社長及び担当役員が可能な限り各職場を巡回し、退社を促す。
- 各支店・工場においても経営トップから定時退社を促している。

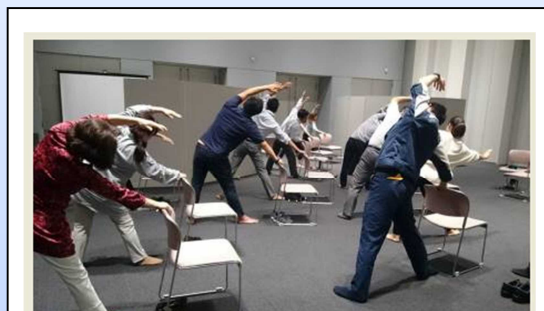
年次有給休暇の取得率向上への取組

計画的付与制度等の導入

- 年間 5 日間の計画年休を、年初にあらかじめ設定（各工場では事業所一斉に設定し、本社・営業担当においては個人別に設定）。
- 連休明けの土曜日を年次有給休暇取得奨励日と定め、年休取得を促している。
- 半日単位の年次有給休暇制度を導入。
- この結果、年次有給休暇の取得率は約 35%（2015 年度）から約 59%（2017 年度）へ向上した。

その他

- 従業員の子どもが職場を訪れる「子ども参観日」を催し、親の働く姿を間近に感じていただくとともに、働く大人たちと直に接することによって働く楽しさを実感していただいている。
- その他、事業所ごとに運動会を開催したり、親子リクリエーションを実施している。



健康経営への取組

- ストレスチェックの結果を踏まえてストレス対処力を挙げる講話を実施。
- 社内でヨガ教室を催したり、睡眠セミナーを開催。生活習慣病による欠勤が減少するなどの効果があった。
- これらの結果、2017年、2018年と2年連続で「健康経営銘柄」に選定された。これは経済産業省が東京証券取引所と共同で、従業員の健康管理を経営的な視点で捉え、戦略的に取り組んでいる事業場を毎年1業種に1社を選定しているものである。

会社プロフィール

設立 1906年(明治39年)
所在地 神戸市中央区港島南町4丁目6番6号
事業内容 製造業(ヘルム関連製品、ゴム・ウレタン製品、イソタマ-製品)
労働者数 1283名(2018年3月31日現在)
HP <https://www.bandogrp.com/>

新入社員教育に農業ボランティアを取り入れています。兵庫県で実施することにこだわり、兵庫県丹波市の農家さんたちにお世話になっています。同じものづくりの現場で働く大先輩と交流をし、生産者さんたちの熱意やプライドにふれ、新入社員としての心構えを体験しています。また、おいしい野菜を食べ、栄養豊富な土に触れ元気をいただいています。社長も激励に訪れ、新入社員と一緒に農業を楽しんでいます。

